

# 沢井製薬株式会社



企業レポート

澤井 弘行\*

## 1. 会社概要

名称 沢井製薬株式会社  
 英文名 Sawai Pharmaceutical Co., Ltd.  
 本社 〒535 大阪市旭区赤川1丁目4-25  
 創業 昭和4年4月1日  
 設立 昭和23年7月1日  
 資本金 23億円(平成5年3月現在)  
 年商 151億8800万円(平成4年度)  
 経常利益 18億3400万円(平成4年度)  
 従業員 700名(平成5年4月現在)  
 代表者 取締役社長 澤井 弘行  
 事業内容 医療用医薬品の製造販売  
 一般用医薬品の製造

## 2. 主な沿革

当社は昭和4年創業、昭和23年株式会社に改組した伝統ある医薬品メーカーであります。設立当初は目薬、膏薬、保健薬など一般家庭薬を製造販売しておりましたが、昭和37年頃より医療用医薬品の需要が多くなるに従って当社も医療用医薬品の開発に研究の主力を注ぎました。

“医薬品の有効性と安全性を追求する沢井製薬”をモットーに薬効面では消化器系用剤、循環器系用剤、神経系用剤、代謝性医薬品、化学療法剤、抗生物質製剤など幅広い用途の治療薬を、また剤型的にはカプセル剤、持続性錠剤、錠剤、腸溶性フィルム錠、注射剤、シロップ剤、ドライシロップ剤、軟膏・クリーム剤など各種剤型



\*Hiroyuki SAWAI  
 1938年2月21日生  
 昭和41年大阪大学薬学部院修  
 現在、沢井製薬株式会社、代表取締役  
 TEL 06-928-7071

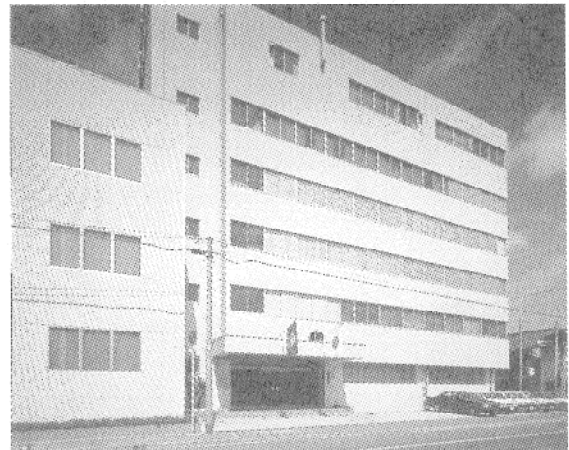


写真1 本 社

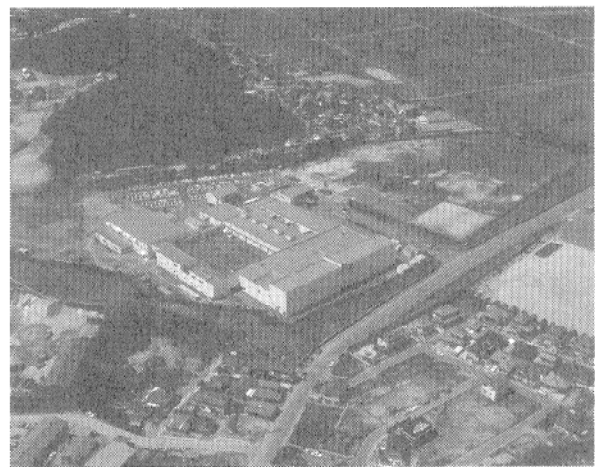


写真2 九州工場

の製品250品目を製造販売し、全国の病院・医院の御要望にお応えしております。昭和51年GMP(Good Manufacturing Practice 医薬品の製造及び品質管理基準)の実施に伴い当社はいち早くこれに対処して、近代的生産設備を完備致しました。これ以降も高品質医薬品を生産する設備に対しては、積極的に投資しております。

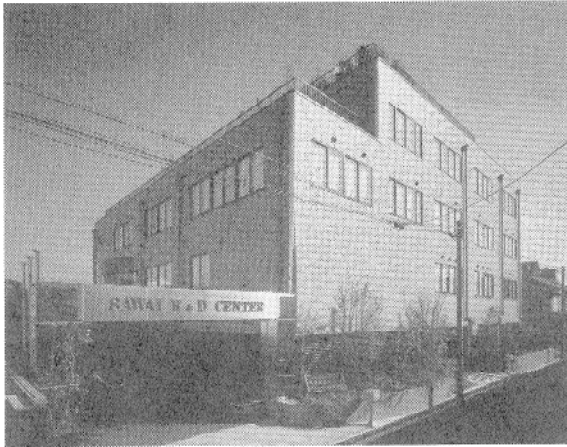


写真3 研究開発センター

### 3. 当社の特徴

#### (1) 品質の追求

当社の品質に対する厳しい姿勢は、福岡県飯塚市にある九州工場を見学していただければ、一目瞭然にお分かりいただけると思います。

この九州工場には、バイオクリーンを根底としてハイクオリティな製品を目指すという当社の願いが込められており、昭和アルミと共同開発した静電気の発生しないアルミパーティションパネルやクローズド方式のFAシステムなど随所に工夫が凝らされ、内外から世界でもトップレベルの工場であるという評価を受けております。

平成4年に第1期工事が完了した三田工場は兵庫県三田市テクノパークに位置し、24時間稼働のコンピューター制御打錠機をはじめとして当社のこれまでの技術の蓄積が活かされております。九州工場、三田工場、大阪工場これら三つの工場から250品目の医薬品が世に送り出されております。

また、高品質医薬品への第一歩は、原料の厳しい選択から始まるという理念のもとに、当社独自で制定した厳しい受入規格で妥協を容れない厳格な品質管理体制をしております。

さらに、関連会社のメディサ新薬は、国内一流医薬品メーカーと販売提携を結び、高品質医薬品の製造元として、その地位を築きつつあります。

#### (2) 優れた製剤技術

医薬品というものは、患者に快く受け入れられることが重要です。具体的には服用しやすいものであることが必要になります。

当社では、錠剤しかなかった製品を、お年寄りの方にも飲みやすいドライシロップに剤型変更したり、良い薬であるのに極めて苦いため患者の服用拒否がある薬剤を、マスキング技術により飲みやすくするなどの工夫をこらしています。この他にも当社の優れた製剤技術を生かして、患者にも又注射剤などでは医師、看護婦にとっても優しい医薬品を提供できるよう努力を重ねております。

#### (3) 新薬開発への積極的な取組み

結核撲滅の運動がWHOにより繰り広げられており、エイズ患者の結核増加も問題となってきております。当社は、土壌菌からの抗癌剤研究の副産物として、全く新しい血清による結核診断薬を発見いたしました。現在この薬は診断薬専門メーカーの手により、市場に出すための開発が行われております。

また、大阪大学との共同開発により、抗アレルギー剤、抗潰瘍剤などの新薬候補物質を開発し、前臨床段階にあります。

海外新薬メーカーからの導入も積極的に進めており、抗炎症剤、抗喘息薬は既に臨床段階にきております。

これらの研究開発業務を支える拠点は、本社の近くに2ヶ所設置しており、緊密な連絡を取りながら、日夜新薬開発に取り組んでおります。

### 4. 大衆薬への回帰

当社は昭和62年に、資生堂と大衆薬（一般用医薬品）を共同開発することに合意し、同時に両社の関係がより強固になるよう資生堂の当社への資本参加が実現されました。

以来、女性をターゲットとしたビタミン剤、解熱鎮痛剤、緩下剤、整腸剤などが続々と上市されております。これらの製品は、資生堂より全国的に発売されております。

## 5. 経営理念と社長方針

### (1) 経営理念

- より有効で安全な医薬品を開発し、高品質かつ経済的に安定供給することにより国民医療に貢献する。
- 社員の豊かな生活を実現し、株主の利益を守るため全社一丸となって創意工夫努力する。

### (2) 社長方針

- 変化に対応し風通しの良い開かれた会社
- 公正な評価と人材の育成
- 仕事には厳しく、しかし人には優しく
- 総力を結集し全社営業マン
- 生きがいのある“良い会社”づくり

これらの経営理念及び社長方針を実現するため、当社は5ヶ年の中長期経営計画を立て、各部門が真剣に自らのテーマに取り組んでおります。

当社は現在未公開企業ではございますが、公開を目指して一大変革中であり、組織、各種制度の改革、社員に対する研修の実施、戦略的リアルオンラインシステムの構築等を実行しており、社員一人一人が、会社の変化を肌で感じつつ、売上高上昇の波に乗り、積極的に仕事に取り組むという、非常に良いムードが育ちつつあります。

## 6. おわりに

急速に接近する高齢化社会を迎えて、今、日本の医療行政は大きく変化しております。経済性を取り入れた医療は時代の要請であり、当社は保険財政のために高品質の医薬品を経済的に安定供給することにも引き続き注力していきたいと考えております。

それと同時に、新薬開発には特に力を傾け、21世紀においても存在感のある企業として、一層の発展に努力いたします。

